

看 護

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

看護における情報管理についての主体的・対話的で深い学びの授業実践

(2) 研究のねらい

本研究では、看護における情報管理についての演習（KYT：危険予知トレーニング）を通して、医療安全の基本知識を基に事故を予測し、その防止について考え、患者の情報保護のために看護倫理を踏まえた判断や行動ができる看護師としての資質を育成することをねらいとした。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

- ① 科目名：看護と倫理（学校設定科目）
- ② 単元名：看護における倫理（安全管理）
- ③ 単元の目標：看護における倫理的問題についての学習を通し、対象者の尊厳や権利を守るための基本的な知識や技術を身に付け、看護倫理を踏まえて解決策を考えるとともに、対象者の尊厳や権利を守ろうとする態度を身に付ける。
- ④ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・看護における倫理的問題に関心を持ち、対象者の尊厳や権利を守ろうとする態度を身に付けている。	・看護における倫理的問題について、看護倫理を踏まえて根拠を明確にしたうえで、具体的な解決策を考えられている。	・対象者の尊厳や権利を守る方法について、看護活動に活用する技術を身に付けている。	・看護倫理に関する原則や法律などの基本的な知識を身に付けている。

⑤ 単元（題材）の指導計画

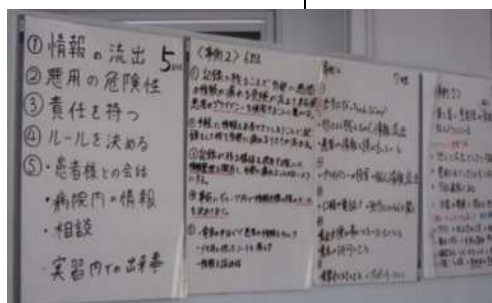
次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1 2	「看護職の倫理綱領」の前文と条文を読み、看護職の倫理綱領の意義と内容を理解する。				○	d. 看護職の倫理綱領の意義と内容について理解している。	d. 観察 ワークシート 定期試験
2	3 4 5 6	医療・看護における看護者の倫理行動についての事例の協議を行い、看護における看護者の倫理的行動について考える。 事例の協議内容について、根拠などを明確にして発表する。	○				a. グループワークで、メンバーの考えを取り入れながら自分の考えを発言し、事例についての理解を深めようとしている。 b. 看護職の倫理綱領と関連付けながら事例を理解し、解決策を考えられている。 c. 医療・看護における看護者の倫理的行動について、看護活動に活用する技術を身に付けている。	a. 観察 b. 観察 発表 ワークシート c. 発表 ワークシート

						○	d. 事例について、根拠となる看護職の倫理綱領の条文などを、理解している。	d. 観察 ワークシート 定期試験
3	7 8	情報管理についてのKYTイラストシートを用いた協議により、情報管理におけるリスクや情報の取り方及び共有の仕方について考える。 KYTの事例と関連付けて、情報保護に関する法律や原則などを理解する。	○			○	a. 情報管理について問題意識を持ち、KYTで積極的に意見交換をしている。 b. 看護倫理を踏まえて、事例の問題の明確化や具体的な対策などを考えている。 c. 看護における情報の取り扱い及び共有の仕方について、看護活動に活用する技術を身に付けている。 d. 情報管理に関する基本的な法律や原則などを理解している。	a. 観察 b. 観察 ワークシート c. 発表 ワークシート d. 観察 ワークシート 定期試験

⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>1. 学習目標・学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護者の倫理原則などの前時までの学びを想起させ、本時は情報管理について考えていくことを意識づける。 授業の学びの到達度（表1）を示し、本時の目標を具体的にイメージさせる。 <p>2. KYT（危険予知トレーニング）の目的・方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議を活性化するために、否定しない、自由に発言する、積極的に発言するなどの注意点を説明する。 <p>3. 実習場面に関するイラストシート（KYT事例1及びKYT事例2（参考資料1及び2））について協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> イラストシートにおいては、①病院でのエレベータの場面 ②SNSで友人に助言を求める場面の2事例とする。（グループで、事例1または事例2のどちらかを協議する。） 事例について、①考えられる危険は何か ②どうして危険なのか ③解決するために自分に何ができるか④チーム・グループとして、何ができるか ⑤この他に、似たような場面はないか の5項目について協議する。（特に②の根拠について丁寧に考える。） グループメンバーは4～5人、協議時間は30分とする。 	<p>a. 情報管理について問題意識を持ち、KYTで積極的に意見交換をしている。（観察）</p> <p>b. 看護倫理を踏まえて、事例の問題の明確化や具体的な対策などを考えている。（観察・ワークシート）</p>

4. 協議内容を発表する。
 ・グループ毎にボードに記入し、発表する。



5. 発表内容を基に、クラス全体で話し合う。
 ・各グループの発表内容で、共通する部分を確認しながら、事例のポイントをまとめる。
 ・事例の場面について、実際にどのように対応すべきか、具体的な発言や行動について考える。
6. 情報管理についての根拠法や看護職の倫理綱領、医療原則と結び付けて理解する。
 ・看護師の守秘義務の根拠となる「保健師助産師看護師法」「看護職の倫理綱領」「医療倫理原則（忠誠の法則）」「個人情報保護法」などを確認し、結び付けて考えさせる。
7. 学習活動の振り返りを行う。
 ・授業の感想を数名発表する。
 ・授業の到達度の自己評価を行い、本時の学びを情報管理についてのスローガンとして文章化する。（授業後にクラスルームアンケートフォームより回答する。）

c. 看護における情報の取り扱い及び共有の方法について、看護活動に活用する技術を身に付けている。（発表・ワークシート）

d. 情報管理に関する基本的な法律や原則などを理解している。（観察・ワークシート・定期試験）

研究実施校：神奈川県立二俣川看護福祉高等学校(全日制)
 実施日：令和3年10月18日(月)
 授業担当者：池端 万須美 教諭 安達 ゆかり 教諭
 伊藤 ゆき 教諭

【表1】学びの到達度

	到達度3	到達度2	到達度1
関心意欲態度	情報管理について問題意識を持ち、患者の情報保護のために、積極的に取り組めた。	情報管理について問題意識を持ち、積極的に取り組めた。	情報管理について問題意識があまり持たず、積極的に取り組めなかった。
思考判断表現	看護倫理を踏まえて、情報管理の問題や対策について深く考えることができた。	情報管理の問題や対策について考えられた。	情報管理の問題や対策についてあまり考えられなかった。
技能	看護倫理の原則などと関連付けて、情報の取り扱いについての技術を身に付けられた。	情報の取り扱いについての技術を身に付けられた。	情報の取り扱いについての技術をあまり身に付けられなかった。
知識理解	基本的な法律や原則について、情報管理の問題と関連付けて深く理解できた。	基本的な法律や原則について、理解できた。	基本的な法律や原則について、あまり理解できなかった。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

本単元では、医療安全の基本とともに看護倫理を踏まえた情報管理の重要性を意識付け、自ら判断し行動できるようにすることが重要であると考え、リスクマネジメントに焦点を当てたKYT（危険予知トレーニング）を中心に授業を展開した。生活の中でインターネットの利用が定着している世代である生徒に対して、臨地実習での情報管理のテーマを取り扱い、自分自身の身近な問題として捉えられるようにすることで、生徒の主体性を引き出すとともに協議を活発にして深い学びにつながると考えた。

授業の導入時には、生徒が見通しを持って主体的に学習活動に取り組めるように、授業の目標とともに学びの到達度（表1）を具体的に説明した。今回、到達度は3段階とし、自己評価を通して生徒自身が成長を感じられ達成感が得られることを目指した。また、KYTの実施方法について、「他の人の発言を否定しないこと」「自由に発言すること」「多くの発言をすること」「他の人の発言を加工して発言してよいこと」などを説明し、活発な協議となるように働きかけた。そして、患者の情報管理について、「なぜ危険なのか」「どうしたらよいのか」「他の場面で類似する場面・危険はないか」など、根拠を明確にしながらかし合いを深めることで、これまでの実習オリエンテーションで注意喚起を促されてきた情報管理の重要性を改めて考えることを意識づけた。

KYTでは活発に協議が行われ、全てのグループがなぜ危険かという根拠を複数の例を挙げながら、倫理的な視点から多面的に説明できていた。ワークシートには、事前学習で記入した自分の考えに追加して、グループメンバーの意見や全体のまとめの内容を記入できており、「グループで考えたことにより、考えを深めることができた」など、グループワークでの学びの深まりを感想で記述している生徒が多かった。

指導については、授業の導入時及び協議等において、自ら考え、深い学びの視点等に重点を置きながら実践した。

評価等については、授業後に行った生徒の自己評価に合わせて

- ・関心・意欲・態度においては、「KYTで積極的に意見交換を実施しているかどうか」
- ・思考・判断・表現においては、「事例の問題の明確化や具体的な対策などを自ら考えているか」
- ・技能においては、「看護活動に活用する技術を身に付けているかどうか」
- ・知識・理解においては、「情報管理に関する基本的な法律等を理解しているかどうか」

等の観点について、評価を実践し、新学習指導要領の3観点「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」につなげていく。例えば、「思考・判断・表現」においては、「看護倫理を踏まえ、事例の問題の明確化や具体的な対策などを考えている。」等に「十分満足できる」「おおむね満足できる」「努力を要する」に、整理・精選していきたい。

授業後の振り返りでは、情報管理への意識の変化について、「意識が高まった」と回答した生徒は94%だった（図1）。ほとんどの生徒が、「責任感を持つこと」や「自分自身が意識を持つこと」など、看護者の意識の重要性を感想で述べていた。また、「看護職の倫理綱領」や「保健師助産師看護師法」等との関連を記述している生徒もいた。学びを文章化したスローガンでは、「患者や家族の立場に立って考える」や「信頼関係を守る」と記入している生徒が多く、患者や家族との信頼関係において情報管理が重要であることを理解し、患者の立場に立って情報漏洩などの医療事故のリスクを考えられていた。

情報管理の具体的な方法の理解については、「よくわかった」と回答した生徒は85%、「まずまずわかった」と回答した生徒は15%であった（図2）。昨年度から、新型コロナウイルスによる影響で臨地実習が制限され、実際に看護師が申し送りやカンファレンスなどで患者の情報を共有する場面を見ることができなかつたため、具体的な情報管理の方法を理解することは難しいが、身近な場面から考えてみることでその方法をイメージすることができたのではないかと考える。スローガンで、「病院以外で個人情報をお話さない」「ファイルを厳重に管理する」「SNSで情報を書き込まない」など、情報を守るための具体的な行動を文章化できていた生徒も多かった。

「今回の学びを将来いかせるか」という質問に対しては、「とてもいかせる」と回答した生徒が97%、「少しいかせる」と回答した生徒が3%だった（図3）。授業の感想として、「日頃の自分の行動の一つひとつに気をつけることが大事だと思った」「今のうちから情報管理について学ぶことで意識することができ、将来、確実に情報管理ができると思う」「自分の理想の看護師になるために、患者の情報が守れるようになりたい」「患者の立場に立って、どのように行動すべきか考えられる看護師になりたい」「進学や就職をしてからも情報管理をしっかり行いたい」など、日常生活での自分のあり方や将来の理想の看護師像について考えられている生徒も多く、科目の目標である看護観や職業観、倫理観の育成にもつなげることができた。

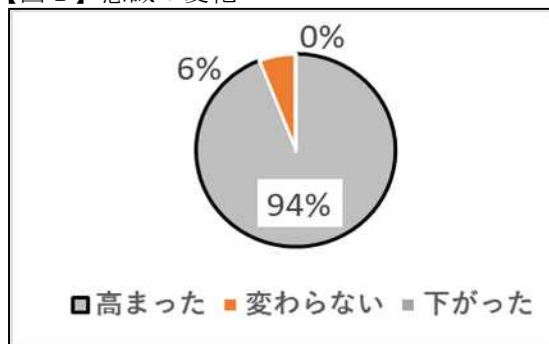
授業後に行った生徒の自己評価では、関心・意欲・態度については、到達度3の「情報管理について問題意識を持ち、患者の情報保護のために積極的に取り組めた」と回答した者が91%であった（図4）。思考・判断・表現については、到達度3の「看護倫理を踏まえて、情報管理の問題や対

策について考えられた」と回答した者が94%であった（図5）。技能については、到達度3の「看護倫理と関連付けて、情報の取り扱いの技術が身についた」と答えた者が88%であった（図6）。知識・理解については、到達度3の「基本的な法律や原則について、情報管理の問題と関連付けて、深く理解できた」と答えた者が91%であった（図7）。4観点ともに、到達度1をつけた生徒はならず、生徒は授業の目的を意識しながら学習活動に取り組み、達成感も得られたと考える。本単元では、他者との関わりや対話を通じて学ぶこととともに、生徒が自分の内面を見つめ自己との対話を通して、自己の成長や課題を知ることが重要である。教員は生徒の学びに寄り添い気づきを促すとともに、形成的評価の視点で総合的に評価する必要がある。今回は、全体的に生徒の達成度は高かったが、達成度の低い生徒に対しては、生徒の成長した面を認めながら事後指導を丁寧に行うことが必要である。

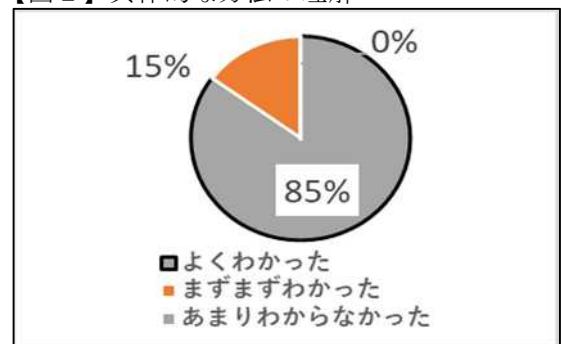
課題として、生徒間で意見交換をしたり生徒が考えを深めたりするための時間の確保が挙げられる。今回、全体でのまとめの時間や生徒自身が学んだことを整理し深めるための時間が十分でなかった。授業での学びを生徒自身が整理し、知識や技術を統合して再構築することで、看護活動の実践にいかせる学びとなる。そのための時間を確保するには、さらに科目間の関連性をいかして、効果的に授業を展開することが必要である。今回の単元では、「基礎看護」や「看護情報活用」「看護臨地実習」などの科目と関連付けて計画的に学習することで、時間を確保できるとともに学習内容を深めることができる。また、事前学習や事後学習にICTを積極的に取り入れていくことなども重要であると考えられる。

近年、医療や看護における情報技術の進歩は著しく、それに伴う情報漏洩などの事故も多様化しているため、それらに対応して情報管理を行っていくことが看護師に求められる。患者の情報を守るために、医療安全や看護倫理の基本を基に、自ら判断し適切な行動が取れる生徒の育成を目指して、今後も柔軟に授業改善を行っていきたい。

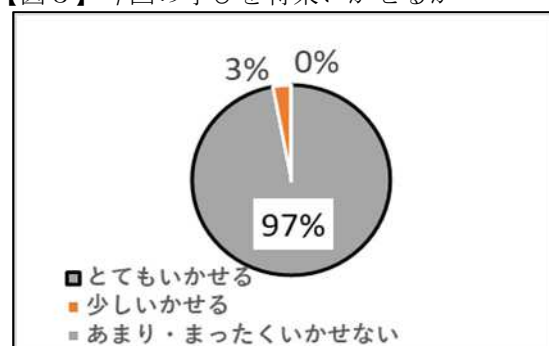
【図1】意識の変化



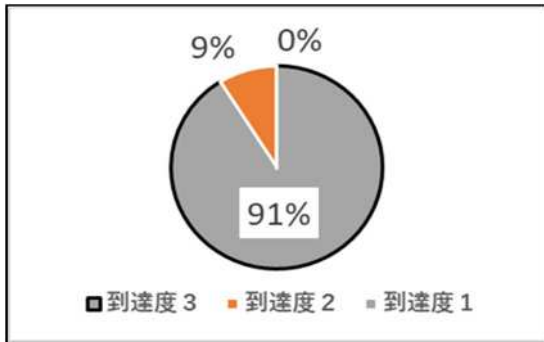
【図2】具体的な方法の理解



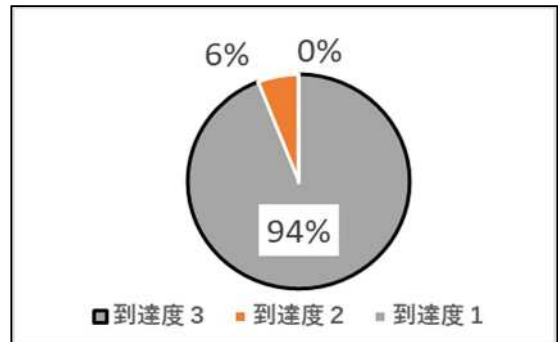
【図3】今回の学びを将来いかせるか



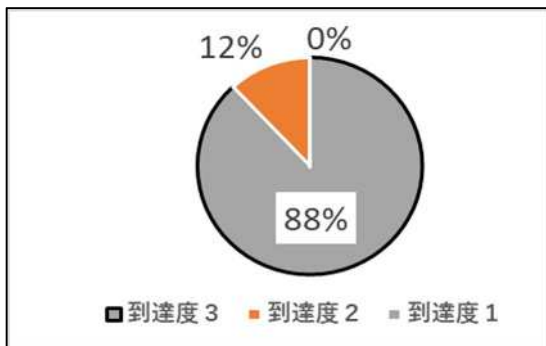
【図4】 関心・意欲・態度の自己評価



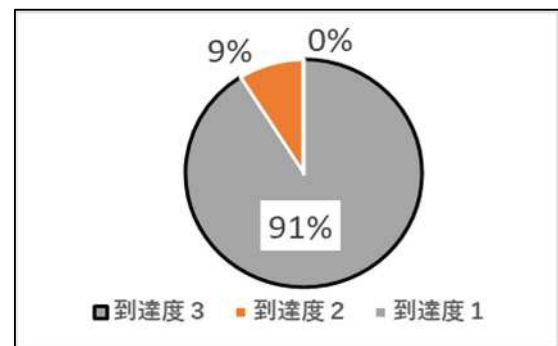
【図5】 思考・判断・表現の自己評価



【図6】 技能の自己評価



【図7】 知識・理解の自己評価



【イラストシート1 (KYT事例1)】

医療安全
KYT (危険予知トレーニング)

どんな危険があるだろう？

<事例1>

①考えられる危険は何か



②どうして危険なのか

③解決するために、自分に何ができるか

④チーム・グループとして、何ができるか

⑤この他に、似たような場面はないか

医療安全
KYT（危険予知トレーニング）

どんな危険があるだろう？

<事例2>

①考えられる危険は何か



②どうして危険なのか

③解決するために、自分に何ができるか

④チーム・グループとして、何ができるか

⑤この他に、似たような場面はないか